

GHQ/SCAP と戦後の政治再建

— 占領計画や政策における日本保守主義者たち —

目 次

序 章	1
第1章 計画過程 — 二項対立の発生 (1945年8月以前) —	17
1.1 政党政治と政治的資質の境界線	22
1.2 保守派の過去と未来を反映した基本方針	31
1.3 太平洋を越えて — ワシントン計画から GHQ/SCAP アジェンダへ	38
第2章 占領期 (1945年秋)	44
2.1 生き残った保守派 — 保守派情報とそれに代わるものの欠如 —	45
2.2 懸念をもたらした背景と要因	58
2.3 国会会期中に強まる先入観	65
第3章 望ましからざる保守分子のパージ (1946年1月)	75
3.1 差し迫った保守主義者の支配がパージを促進した	76
3.2 パージは特に保守主義者に対する打撃となった	84
3.3 パージの内容に対する否定的な姿勢の影響	91
第4章 新しい日本の針路を定める (1946年春)	97
4.1 保守派は新憲法の脅威ではなかった	99
4.2 保守派が選挙に勝っても、延期はなかった	105
4.3 保守派は合格で、鳩山は落第だった	116
第5章 無干渉主義から失望へ (1946年夏と秋)	134
5.1 有望な徴候 — 保守政党の再評価 —	135
5.2 楽観論の時代 — 協力的内閣と進歩する政党 —	141
5.3 失望と新たな解決策の探求	148

第6章 中道保守主義者の支援	161
6.1 歓迎される民主党と国民協同党	163
6.2 選挙法改正と中道派連立の圧勝	169
6.3 民主党指導部の改造	173
6.4 新内閣はGHQの期待に添っている	185
文 献	190
人名索引	224